

# 水子供養の発生と現状

森 栗 茂 一

- 
- |                |              |
|----------------|--------------|
| 1 問題の所在        | 5 水子供養絵馬の具体例 |
| 2 例外としての近世水子供養 | 6 水子ビジネスの実態  |
| 3 間引きと再生       | 7 考 察        |
| 4 各地の水子供養の概観   |              |
- 

## 論文要旨

仏教には、水子を祀るという教義はないし、水子を各家で祀るという祖先祭祀も、前近代の日本にはまったくなかった。にもかかわらず、今日、「水子の霊が祟るので水子供養をしなければならない」と、人々に噂されるのはなにゆえであろうか。いわゆる1970年代におこり、80年代にブームを迎えた水子供養が、すでに20年を経過した今日、これを一つの民俗として研究してみる必要があろう。

前近代の日本では生存可能数以上の子供が生まれた場合、これをどのように処理してきたか。一つには、予め捨られることを予期して、捨て子にする風があった。捨て子は、強く育つと信じられ、わざわざ捨吉などの名前をつけたこともあった。しかし、社会が育ててくれる余裕がないと思えるとき、間引きや墮胎がおこなわれた。暮らしていけないがゆえの間引きや墮胎を、人々は「モドス」「カエル」と言って、合理化してきた。実際、当時の新生児の生存率は低く、自然死・人為死に関わらず、その魂が直ちに再生すると信じて、特別簡略な葬法をした。

それでも、妊娠した女が子供を亡くすということは、女の心身にとっては痛みであり、悩みがないわけではない。しかも、明治時代以降の近代家族が誕生するにあたって、女は「良妻賢母」「産めよ増やせよ」「子なきは去れ」と、仕事を持たない「産の性」に限定された。そのため、女は身体の痛みの上に、社会的育徳という痛みを積み上げられた。そんな悲痛な叫びが、水子供養の習俗に表れている。

ところが、この女の叫びは、宗教活動の方向と経営を見失った寺院のマーケットにされてしまう。寺院や新宗教の販売戦略、心霊学と称するライターによって演出され、読み捨て週刊誌に取り上げられてひろまった。

明治時代以降の近代家族は、男の論理による産業システムのためのものであった。その最高潮である60年代の高度経済成長が終わった70年代に入って、水子供養が出てきていることは興味深い。産業社会の幻影が、女を水子供養に走らせた。その女を、寺院は顧客として受け入れた。こうして、女は金に囲いこまれて、水子という不安に追い込まれ、水子供養という安心に追い込まれていったのである。

そこで、彼女らの残した絵馬を分析することで、女の追い詰められた心理の一端を、分析してみたいと思う。

## 1 問題の所在

水子供養を「現代の世相解説の課題の第一」と早くから指摘したのは米山俊直である。<sup>(1)</sup>しかし、この現象は、民俗学ではほとんど分析の対象にのぼらなかった。

もっとも、『日本民俗文化大系』の写真解説にはある。「高度経済成長期に入って、水子地蔵の数は全国的に増えた」として、山形県羽黒神社境内の「水子地蔵安置堂」そばの塔婆を掲載して<sup>(2)</sup>いる。また、三井寺円満院の水子供養の写真が掲載されている。<sup>(3)</sup>しかし、直接これを論じることはなかった。

というのは、この現象が新しい世相であり、民俗として定着するものなのか、ブームとして一過性のものなのか見極めがつかなかったからである。

しかし、宮田登は『大衆文化事典』に次の指摘をしている。

水子は、一般に胎児をさしており…(略)…ちょうど現世と他界の境界領域を漂っている存在と思われていた。…(略)…長崎県壱岐島でミズコという場合、生まれた赤児で1年以内に死んだ場合であり、それを死者の数に入れないものとする。その理由はミズコは生まれ変わるからだという。また赤児がミズコで死んだ場合、それを埋葬した土の上を若い女性が踏み歩くと再生するという言い伝えが、青森県下に残っている。江戸時代の農山漁村では、間引きと墮胎が行われたが、現代社会では優生保護法で墮胎が妊娠中絶として認められている。水子供養は1960年以後の現代社会に流行しており江戸時代には顕著な現象ではなかった。間引きなどは各藩令では禁止されてはいるが、不安定靈魂の状態ならば逆に再生を可能にする信仰があり、死者として供養の対象にはなっていなかった。現代の妊娠中絶に対して、現代人は不安定な水子の靈魂が、再び蘇ることを祈って供養するという心意が残存しているのかもしれないが、一方では現代人の荒廃した精神的不安を反映させている社会現象と考えられる。<sup>(4)</sup>

従来の日本民俗学の間引き・嬰兒の命に関する視点が、最近の世相のなかでどのように変わったのかを解説してある。しかし、これが人々に定着した民俗なのか、単なるブームなのか、その水子供養の作られ方の実際については具体的研究があるわけではない。

もっとも、千葉徳爾は「最近の水子ブームの背景にあるのは、子育てが地域社会から分離し、(母)親だけにその責任が任された結果生じた現象」と述べている。<sup>(5)</sup>近代家族のいきついた核家族が、女性をどのような形でおいづめていったかに視野を求めるべきことを暗示している。また飯島吉晴も、

かつては間引かれたり、幼少期に死亡したものはミズコやジゾッコ(地蔵子)などとよばれ、村境に祀られた地蔵や道祖神にその靈魂を託して再び此世に生まれかわるものと信じられていたほか、各家の主婦が子安講などの女人講を組織し共同体全体で水子や産死者の供養

をしたり安産を祈願するシステムがあって、今日のように主婦が社会的連体もなく一人で自責の念にかられる社会状況にはなかったのである。<sup>(6)</sup>

と述べ、現代社会に宙吊りにされた女性のあり方に水子供養ブームの原因をみている。

波平美恵子も、

流産・墮胎・間引などによって、この世における生を与えてもらえない子供はまた、不毛の性を意味するものである。これらの子・胎児は「水子」と呼ばれ、その死霊は妊婦の死霊と同じ穢れが強いため、不特定多数の人々の供養—後生の水をかけてもらう—を受けなければ成仏できないと信じられている。(略) [水子]地蔵の供養や祭祀をすることによって福—子供を与えられるという—をさずけられるという信仰もあり、不妊に悩む人びとの信仰の対象になる。(略)

個人や家に起こるさまざまな不幸、とくに病気は、胎児を十分に祀らなかったためと信じ、病気の治癒祈願あるいは疫病除けのため(略)水子地蔵を祀るのである。福岡市近郊の笹栗は元来修験道と結びついた聖地とされたが、近年になって水子地蔵の建立やその祭祀が盛んで(略)福岡市や北九州市内在住の密教系祈禱師から、笹栗参りをするように示唆されて信仰を始めることが多い。<sup>(7)</sup>

と指摘しており、水子に対するケガレ概念が、水子のタタリというブームとむすびついていることを指摘している。

しかし、昭和40年に秩父の紫雲山地蔵寺が、戦後の混乱期、子供をおろした主婦層の心をとらえたという現象と、水子ソングや水子キャラクターが生まれ若い女性が押しかけるという最近の水子ブームとは明らかに異なる。前者にあっては、墮胎はいうならば家ないし家族の連帯責任のもとに置かれた問題であった。一方、現代の水子では、水子は家ないし家族の束縛を離れた女性個人の責任に転嫁されている。すなわち、社会的な女性の束縛的位置づけと、それを離れたがゆえの女性の不安、そしてその不安をあおる情報・経営活動とが結びついた動きがあるのである。

始まってもう20年以上を経過している水子ブームがはたして、民俗になっているのかどうか、世相変化のなかでどうなったのかを検証することを本論は目的とする。日本の伝統的間引きや小児の魂の定着が遅いことから、水子の発生要因を説明するのではなく、現実の水子供養を分析して、人々を納得させる世相解説をする必要があるのではなかろうか。

すでに、人類学では、前者の戦後混乱期に子供をおろして水子供養に走った主婦層を対象にした研究がはじまっている。<sup>(8)</sup>

## 2 例外としての近世水子供養

墮胎・流産・死産児に対して日本ではどのようにみてきたのであろうか。仏教的には、水子<sup>すいじ</sup>というが、これに戒名をつけたり、タタリを恐れるなどということは仏教教義外のことである。水

子供養の「HOW TO」物、たとえば『自分でできる水子の供養』（高島象堂、1988年）には、「水子は『古事記』の「水蛭子」を起源とし、地方によっては年内や百箇日、名前をつける前、生後生まれてすぐ死んだ赤ちゃんまで含めて水子とよぶ」とある。本来つくられた意識であるから、その定義は変化する。蛭子を出して、古典然としながら、水子定義を拡大している。近年の水子供養の流行は、水子定義を、嬰兒だけではなく、幼児死亡まで拡大して解釈している。それは水子マーケットの拡大というビジネス戦略という側面もある。

「水子は一般に胎児をさし（略）現世と他界の境界領域を漂っている<sup>(9)</sup>」というから、現代ではこの境界領域が拡大しつつあるのであろう。

ところで、今日ほどの隆盛はないまでも、江戸期の避妊方法が、

- ・オト・ツマなどの音の入った名前を最後と思う子につける。
- ・性交時、酢・塩水・灰汁水・すめめ・生卵などの飲食物をとる。
- ・陰部・腹部に灸をすえる。
- ・神仏に祈願する。
- ・最後と思う産湯を捨てる時に、たらいの底をたたけばその数だけ、小豆をたべればその数だけ、小さい握り飯をたべればその数だけの年、妊娠しない。

しかなかった時代では、墮胎・間引きは特殊なことではなかった。水子供養をしていたら際限がないから、水子供養の資料はほとんどない。もっとも、近世に全く水子供養がないわけではない。岩井宏實によれば、

- (1) 農村型間引きの水子をまつる寺（例、飛騨宮村の往還寺、河合村角川の専勝寺）
- (2) 遊女の産んだ水子をまつる寺（例、吉原遊女の投込寺、箕輪の浄閑寺、北千住の地藏院金藏寺）

の2タイプがあげられている<sup>(10)</sup>。

柳田國男も、13歳で少年時代を過ごした茨城県布川の満徳寺の「子がえしの絵馬」を記している。布川は一日に何百という船が上下する利根川沿いの町で、洪水がおきると一帯の住民は飢饉にみまわれ、間引きも多い商品経済の影響の強い土地である。

障子にその女の影絵が映り、それには角が生えている。その傍らに地藏様が立って泣いているというその意味を、私は子供心に理解し、寒いような心になったことを今も憶えている<sup>(11)</sup>。

というが、果たして貧困なるがゆえの子がえしであったのか。むしろ、布川という商品経済の普及した、ある意味では都市的な場所における、間引きという「人間の数に対する民衆の経済行為」に対する、仏教側＝ひいては権力者の説得ではなかったか。女に角を生やさねばならぬほど、女に責任を押しつけねばならぬほど、子がえしが当たり前であり、いくら権力者の意図を受けた仏教者が倫理を説こうと、民衆はこれを「子がえし」と正当化した。

同様のものは、他にも多い。千葉県香取郡下総町中里の臨済宗瑞栄山楽満寺は「滑川の子安様」とよばれ厚く信仰されているが、この寺には安産祈願のため主婦によって営まれた十九夜講

の講中によって奉納された絵馬がたくさんある。そのなかで古いのは天保11年（1840）の絵馬であるが、産婦が自分の産んだ子どもを殺して、その産婦の影は鬼の姿をしており、観音様が雲の上からこれを見て泣いているという図である。同じ利根川筋の布川の徳満寺が子育て地藏の信仰であったのに対して、ここでは観音の姿が描かれている。また、埼玉県秩父郡吉田の菊水寺にも間引きを戒めた「子かえしをする人のこころの姿」という絵馬がある。そこには、

此のをんな かほはやさしげなれど わが子をさへころすからは まして たにんの子  
を ころすことハ なんともおもふまい さすれば おにのようなこころにて かほつき  
に にあへぬごうよくなをんななり このやうなをんなのたつとハ なんとも おもふま  
い さすれば おにのやうなこころにて かほつきに にあへぬごうよくなをんななり こ  
のやうなをんなのたつとハ さぞかし おそろしき人ならん  
(12)  
とある。

また、宮城県伊具郡丸森町には、寺に嬰兒を絞め殺そうとするやさしい女の姿が、影は鬼の姿になっているという図や、今は貧乏だが子供を大事に何人も育てた家が最後には子供たちが全員立派に成長し裕福な家になる、そして片や今は裕福だが財産分与を恐れた子供を間引き・墮胎した家が、結局は跡取りがいなくて滅んでしまうという一代記の絵馬があったという<sup>(13)</sup>。

しかし、これは権力者の意をうけた教導側の論理であり、むしろ、絵馬をかけざるをえないぐらいに、間引きが一般であった。(1)の「間引き絵馬」は、商品経済の浸透のなかで、不作不況になったとき、子供を間引かねば生きていけなかった人々を、とくに女を責めるものであり、人々の意思による自主的な水子供養ではない。

そういう意味では、寛政5年（1793）松平定信が墮胎や間引きの犠牲となった水子の霊を弔うため、東京都墨田区の本所回向院に建てられた境内の水子塚も、権力の企画した水子供養の最も早い例といえる。<sup>(14)</sup> 回向院は、明暦の振り袖火事の死者供養のために設けられた政治的な寺である。

したがって民衆のなかに、自発的な水子供養の意識はほとんどない。ただ、『祐天大僧正利益記』上巻「高野新右衛門が下女解脱の事」には、



図1 井原西鶴『好色一代女』の「水子」の図

新右衛門が下女よしをはらませた。墮胎薬を与えて暇をとらずが、与えた薬の毒で死ぬ。娘みよの口から、よしの怨霊が悪口を語る。そこで祐天大僧正にお祓いしてもらう。すると、よしの言葉として「新右衛門を恨んで祟りをする者が、自分以外にも15霊もおり」、それはどういう者かと祐天が聞くと「皆、新右衛門が墮胎させる子供なり」という。そしてそれは正しかった。<sup>(15)</sup>

とある。また、井原西鶴『好色一代女』巻6「夜發の付声」には、蓮の葉笠のように胞衣をかぶり、腰より下は血にまみれて、はっきりしない声で、「負わりよ、負わりよ」と泣き、「ひどい母様」と恨み申す九十五、六ほど並んだ孕女の姿が描かれている。しかし、その水子たちがタタルという発想は、西鶴の小説にはなく、「水子」とも呼んでいない。

### 3 間引きと再生

現実には多くの嬰兒が死なざるをえない状況、しかも母体さえ危うい状況のなかで、人々がこれを魂の再生として正当化するのは、江戸期の商品経済が浸透し階層分化した下層農民には、支持される考え方であった。水子がいちいち祟っていればキリがない状況であった。

#### (1) 墮胎の実際

江戸時代の墮胎は中条帯刀<sup>なかじょうたておき</sup>『中条流産科全書』による、水銀での墮胎が多かった。

中条でたびたびおろす陰間の子

これは、遊廓の陰間茶屋であるから、先述の岩井の絵馬分類によれば、(2)の遊廓の水子供養の世話になるべきものであり特殊である。

中条はむごつたらしく蔵をたて

今までのことを中条、水にする

という川柳によれば、墮胎は、かなり普遍的であったようだ。墮胎は西国・町人に多いといわれているが、青森県中津軽郡般沢村でも、ホオズキの根を3日間くらい陰部にさしこむ<sup>(16)</sup>という手法が紹介されている。墮胎の方法としては、

- ・ほおずきの根、とうがらし、椎の実の煎じたものを挿入し、ホオズキの葉、ヤマゴボウの根、ナンテンの小枝、ムクゲの小枝、吉野杉の箸などでかきだす。
- ・中条流の子腐り薬「檳榔子<sup>びんろうじや</sup>5分、粉にして薄荷<sup>はっか</sup>の煎じ汁少々、右丸くして水銀少々の丸薬の先に付け大きき三分程の丸さにして産門に押入れ一時ばかり置く也、懐胎の時は指すべからず、一とさしにして子は腐りずるずるになり下るぞ」<sup>(17)</sup>

があった。

墮胎罪がある昭和になっても、尼崎の柏原夫佐子さんの記憶によれば、こうしたことはよくあったらしい。尼崎の世間話に

尼崎のボンサンが、尼さんの所に通っていたら、尼さんがカンスキで（恥骨が高い）ので失敗した話には、前話があって、尼さんの親は墮胎業であつたらしい。その因果で尼さんはカンスキだったという。

そういえば、三重県の「子あずけ観音」は、伊勢街道にそい、朱の産地だ。ここで丸<sup>がん</sup>ジを貰ってきて、子供を墮すという。こんな話は、婦人のヒソヒソの世間話であった。

学童疎開のときに紀州では盥伏せをして間引きしているのを聞いた。尼崎でも「戻そか戻そまいか」は実家の母の判断であり、奇形であれば、悲しても戻しよった。そんな産んだら母親が責められる。あらかじめ子がいないときや、奇形が心配されるときには風呂の中で産み落として直ちに溺れさせた。

昭和初期に尼崎の町の婦人で、経験ないというのは嘘。みんな、なんの気なしに、子は「湧きモン」として子殺しをしていたし、ヒソヒソ話にはいっぱいあった。その結果、みんな寄って地藏和讃や。あれはイヤや。実態を知っていると、悲しうなる。

相原さんの話は興味深い。子は「湧きモン」であり、家のために優性を産む義務があった女性にとっては墮胎は一つの「手段」であった。奇形を産んでは、貧しき家で子を産んでは、女性が責められた時代であった。

## (2) 間引きの実際

間引きは、薬がいない分、各地で多く実行された。図2のように様々な隠語で語られていた。子つぶし、子返し、戻した、カジカ捕りにやる、海に出る、川へ流す、山へ遊びにやる、蓬つみにやる、塩買いにやる、などという。秋田県能代川上地方では、オカエシするという。伊豆御蔵島では「子供は3人以上産んではならぬ」といわれ、コウリャンパ（産婆）に頼んでぬれ紙を口にあって窒息死させた。山形県では間引かれる次男三男をダメオジという。間引いた子は白庭に埋めるので、白子



図2 日本各地の間引き名称（千葉徳爾，大津忠雄『間引きと水子』1983年，より）

ともいう。薩摩では「へし(減らし)子」といった。子供の生まれた日が先祖の命日や鎮守の祭礼にあたると間引きをまぬがれる。これを「功德日に生まれた」という<sup>(18)</sup>。

権力者は、こうしたことのないように、飢饉のときに食物や金を給与をする場合もあったし、一方で間引きを禁止した。たとえば、米沢藩主上杉鷹山は、明和8年(1771)組頭、諸役に説諭文を下した。その後藩では養育料金1両ずつを極貧者に給したし、佐倉藩主堀田正睦は、家臣の計画した陰徳講を受け継ぎ1000両を出し、有志からも資金を集め、貸付を行い、その利子で貧窮者に養育料を渡した。

しかし、庶民は間引きをせざるをえなかったのである。古くは、

日本では貧苦のため、もしくは古来のならわし、悪魔のすすめによって、生まれた子どものうち養育することのできるもののみを育てることが通常であるゆえ、墮胎は無数であり、生まれたくえ殺される幼児もまた無数である<sup>(19)</sup>。

と報告されており、『日本残酷物語』第1巻には「間引きは、東国・農民に多く、産児の口に塩を一握り入れ(青森県中津軽郡般沢村)たり、小俵や藁苞に入れて流し(岩手)たり、膝で圧殺した」という。水にすると行って墮胎したり、藁やコモに包んで流すことも多かった。江戸では『宅あずかり』といい、回向院に持っていってもらった。それで水子塚ができる。その碑によると寛政5年、1万<sup>(20)</sup>体あった」という。

仙台では昔、産婆が「おきますかもどしますか」と聞いた。東北では、村外れに地獄沢・ワラス河原があり、雨のふる夜や夜更けにそこを通ると、身を切るような赤子の声がするという。愛媛や香川の島嶼部では、間引きを貝ひろいにやるといい、小豆島の豊島では昭和初期まで、大雨がふると木箱に入れられた嬰兒が流れてきたという。その箱には、男ならしゃもじ、女なら日の丸扇子を入れてあるという<sup>(21)</sup>。

### 3 水子の再生

殺すまでもいかなくとも、捨て子はよくあった。捨てなくとも「お前は橋の下から拾われた」といわれる冗談は、私達もよく聞かされた話であった。柳田も「昔から百姓家などでは生まれてすぐの子供を遺棄する習慣があった。これは子供を殺すのではなく育てないことだ。宮参りは、育てる子であり村人になることを、宣言する習俗であった。」と「小児生存権の歴史」のなかで述べている<sup>(22)</sup>。また、有賀喜左衛門も、「かつては貧乏ならば捨て子をした。捨てることで幸せがやってくることを期待した。拾い親に親方になってもらい、その同族団の一員として生きることを期待する考えがあった」という<sup>(23)</sup>。養子、トリアゲババ、守親(伊豆大島のモーリー)、名付親、鉄漿付親などは、子供を地域の同族団のなかに何重にも取り込む重要なシステムであった。

そうして社会保障、労働力の相互扶助を構築していったが、近世の商品経済や近代の資本主義が、この社会システムを金銭に換算しだした時期においては、捨て子は単なる遺棄罪に貶められ、墮胎・間引きするしかなかったのである。明治に入って、近代的家族倫理がそれをも許さないなら、

親はいっそ親子心中するしかなかった。<sup>(24)</sup>

つまり、村という地縁の同族団の場を失った日本の親子は、墮胎・間引き・親子心中にかかわらず、必然的に子殺しするしか仕方がなかった。たとえ生まれても、子供は労働力として取り引きされるようになった。丁稚奉公、製糸工場や近代買春に売られた。

こうしたなか、

佐渡では、生まれたばかりの赤子、生まれてから間引かれた子をミズコといい、長崎県壱岐では生まれてその年のうちに死亡した子をいう。愛媛県喜多郡では命名までに死んだ子だ<sup>(25)</sup>という。これは人のうちにはいれず、七夜までが幼児生存の一段階のめやすになっていた。という伝承を考えると、産んでも育てられる経済、産んでも育ちにくい衛生状況のなかで、これは一つの合理化ではなかったかと思われる。現代のように出産したからといって、ただちに人間とは認めることができなかつたのである。

合理化の結果、

水子は、墓地の入口、台所のふみつぎ、入口の敷居、縁の下に埋める。葬式をしない。また、葬式をしても、棺桶のなかに生臭の魚を入れ、赤子を仏の手に渡さないという。また、母の身につけていた服の一部を、4本の竹で支えて、流れ勸請を川に作り、道行く人に流<sup>(26)</sup>してもらって供養した。

壱岐では（ミズコとは）生児のその年の内に死んだもの。これは仏の内に数えぬ。（略）  
そうしておくともた生まれかえってくる。<sup>(27)</sup>

という。また、水子は一人前の葬式をするとあの世でいじめられるという。

つまり、社会のなかで再生を願うという合理化によって、現実社会の不合理を肉体で受けとめ、その痛みを女たちは納得しようとしたのであった。

後に述べるような、昭和40年に、秩父地藏寺が、戦後の混乱期に子供をおろした主婦層を「水子供養」としてとらえたのは、村社会が崩壊して村社会での再生が信じられなくなり、戦後の墮胎の責任が、女にだけかぶさった結果生まれた、当然の帰結であった。

#### （４）現代の墮胎

三重県名張市I村の元産婆によると「戦前の産婆から聞いた話では、兎唇の間引きや、双子の片方を消毒液につけて間引いたという話を聞いたことがある。双子も含めた奇形は、家筋の恥、何か因縁があると噂されたので、こうした話は秘密とされた。中絶は実際には横行していたが、墮胎罪で官憲に捕まることもあり、戦前戦後と罪悪とみなされていたので、秘密でおこなわれた」という。

戦後の混乱期、危険なヤミ手術を防ぎ母性を保護するためとして、昭和23年9月優生保護法が制定された。かくて、刑法の墮胎罪（懲役1年以下）を残したまま、名目的には経済状況または身体状況に応じた例外として、22週未満の胎児の墮胎が合法化された。

表1 『大宅社一文庫目録』よりみた、妊娠中絶記事数

年	件数	年	件数
1914年	1	1967年	6
1920年	1	1968年	3
1930年	3	1969年	0
1931年	1	1970年	3
1935年	1	1971年	5
1949年	1	1972年	10
1950年	1	1973年	12
1955年	3	1974年	21
1956年	1	1975年	7
1957年	1	1976年	12
1958年	2	1977年	8
1959年	1	1978年	20
1960年	3	1979年	19
1961年	1	1980年	20
1962年	5	1981年	11
1963年	1	1982年	19
1964年	1	1983年	13
1965年	1	1984年	7
1966年	2		

表2 近代の乳児死亡、新生児死亡

	乳児死亡		新生児死亡		死産	
	死亡数(千人)	率(出生千対)	死亡数(千人)	率(出生千対)	死産数(千人)	率(出生千対)
1920(大正 9)	335.6	165.7	139.7	69.0	144.0	66.4
1925(〃 14)	297.0	142.4	121.2	58.1	124.4	56.3
1930(昭和 5)	258.7	124.1	104.1	49.9	117.7	53.4
1935(〃 10)	233.7	106.7	98.0	44.7	115.6	50.1
1940(〃 15)	190.5	90.0	81.9	38.7	102.0	46.0
1950(〃 25)	140.5	60.1	64.1	27.4	217.0	84.9
1955(〃 30)	68.8	39.8	38.6	22.3	183.3	95.8
1960(〃 35)	49.3	30.7	27.4	17.0	179.3	100.4
1965(〃 40)	33.7	18.5	21.3	11.7	161.6	81.4
1970(〃 45)	25.4	13.1	16.7	8.7	135.1	65.3
1975(〃 50)	19.1	10.0	12.9	6.8	101.9	50.8
1980(〃 55)	11.8	7.5	7.8	4.9	77.4	46.8
1985(〃 60)	7.9	5.5	4.9	3.4	69.0	46.0
1987(〃 62)	6.7	5.0	3.9	2.9	63.8	45.3
1988(〃 63)	6.3	4.8	3.6	2.7	59.6	43.4
1989(平成 1)	5.7	4.6	3.2	2.6	55.2	42.4
1990(〃 2)	5.6	4.6	3.2	2.6	53.9	42.3

乳児死亡とは生後1年未満の死亡、新生児死亡とは生後4週(28日)未満の死亡をいう。また、死産(自然死産+人工死産)とは、1975年までは「妊娠第4月以後の死産の出産」、1980年以降は「妊娠満12週以後の死産の出産」である。1950～70年は沖縄を除く。1990年は概数。

(『数字でみる日本の100年 改訂第3版』国勢社、1991年、より)

以来、1981年度厚生省統計によれば、年間中絶者数は約60万件、うち未成年は2万件という。未報告を含めると200万件に及ぶといわれている。未成年の死産数は、「1980年 19,048件、1981年 22,078件、1982年 24,478件」となり、これは同時代少女人口の1.81%にあたる<sup>(28)</sup>という。実質的には、復興前の人口対策であり、人口調節のために墮胎を許してきた優生保護法が国際人口会議で問題になることもあった<sup>(29)</sup>。とくに、昭和27年改正で、審査が簡便になり、身体的理由はともかく、経済的理由が問題になり、マスコミでしばしば問題になった。とくに、1972～1974年と1978～1982年に、優生保護法改正の論議が大きな話題となっていた。この時期と水子供養のブームとは関係があると予想される。

しかも、法的には「墓地・埋葬等の法律」によれば、妊娠4カ月以降は、火葬土葬の必要がある。優生保護法で処置可能なモノとしての胎児の22週(4.8カ月以内)との間、4カ月目前半～中期が、法論理的には、モノなのに埋葬しなければならないという矛盾の出る期間となる。人発生の起点が法論理的にもだしているのだ。従って、法論理的にも水子供養の必要性が出てくる。

もっとも、民衆がそうした法を意識したかどうかはともかく、22週までは中絶は可能にもかか

ならず、一方で子宮内手術も可能になり、性別などリアルな情報が届くようになると、墮胎のしやすさとはうらはらに、「生」と「モノ」との相互垂入状況のなかで、胎児の人間化はますます意識されることとなった。胎教や胎児に対する名付けはそうした意識のあらわれである。

こうしたなか、水子供養は人々の間に蔓延したのであった。大阪府の勝尾寺本堂西の慈母観音は、子育てや子授りの観音として信仰されていたが、戦後、参拝者達によって勝手に水子観音とよばれるようになり、供養をするようになった。これは、戦時中に子供を墮した人が50～60歳となり、更年期障害となり、「産んでやれなかったタタリ」と考えたからだ。一方で、未婚女性の増加、婚外妊娠、それに蜜月時代のためや経済的理由による結婚初期の若夫婦、離婚による招かざる出生なども、その原因であった。

現代では、妊娠22週未満の場合で、小さい病院で行う場合、女性本人と相手の男性の署名と印鑑があれば、簡単な手続きでできる。保険がきかないから、保険証など身分を示すものはいらず、偽名で行う者も多い。費用は10万円前後（当時）で、貯金や友人からの「中絶カンパ」でなんとかなる額である。

また、人工流産剤プレグランディン（中絶腔座薬）を手にいれれば、医師の手をかりずに、子宮を強力に圧縮して人工的に陣痛をおこして流産することができるという<sup>(30)</sup>。現代では、誰にも知られず中絶を受けることが可能なのだ。水子は、自分一人の胸に秘めておけばよい問題であった。しかし、自分だけは知っている。誰にも知られない分、誰にも相談できず、自分自身にかかってくる罪悪感<sup>(37)</sup>は深いものがあり、ここに水子供養の女性の身体のみにかかる現代的原因がある。

#### 4 各地の水子供養の概観

各地でみかける水子供養にはどのようなものがあるのであろうか。房総台地水子地藏<sup>(31)</sup>、埼玉県紫雲山地蔵寺<sup>(32)</sup>、東京芝増上寺<sup>(33)</sup>、鎌倉長谷寺<sup>(34)</sup>、京都化野念仏寺<sup>(35)</sup>、京都嵯峨野直指庵<sup>(36)</sup>など、首都圏と京都を中心に「水子寺旅情」<sup>(37)</sup>「女心が救われる美しい水子寺」<sup>(38)</sup>として紹介されているが、その実態の調査はされていない。

ただ、マスコミで「各地の水子供養の値段は、供養料が一体約2,000～15,000円。設置料が5万円位であり、大量生産された金属・セメント・プラスチック製水子地藏が並びはじめたのは、1972年頃からといわれる」と報告されているにすぎない。以下報告したい。<sup>(39)</sup>

##### ① 山形県 羽黒神社境内の「水子地藏安置堂」

##### ② 福島県河沼郡湯川村 A寺

37歳で会社をやめ、日雇職をやめる。寺の業務に専念した1982年4月より、「水子地藏のお寺さん」「ぼけ封じ観音」「厄除け祈願」とともに「人生相談」を始めた。駐車場を整備した。水子は当時はやっていたので、いろいろ勉強し、研究している坊さん?にも会って教えをうけた。

1985年にバス内CM放送、野立看板、折り込みチラシをした。その結果、順調に地藏尊建立数

はふえ、1992年には250体となったが、1993年、バブル崩壊で半減している。お参りは、男女一緒が多く、次に女性のみ。多い人は毎月お参りに来る。近い所より、車で1時間くらいの会津若松市、郡山市、喜多方市の順に多い。

水子供養では、悩んでいることを聞き、精神の安定・安心を悟し、命の尊厳を教え、性格を判断する。はっきり言ってあげた方が良い。若いカップルの場合、何が原因で一緒になれないのか、別々に人生を送った方が良いのか、相性はどうかなど言うと、帰るときは良い顔をしている。

忘れろといっても忘れられないなら、ときどき思いだして供養することで前に向かって生きることが出来る人も多いという。

### ③ 東京都芝 境上寺

街道安全のために作られた西向観音があったが、1975年に移動したのにもない、1976年から水子地藏尊の供養をはじめたところ、数年で1,000体を越えてしまった。

### ④ 東京都 正受院

通称「赤ちゃん寺」は都内三多摩地区・川口・浦和などの病院で死産・流産・中絶した水子の霊を弔うために墓所を提供して、慈眼堂という納骨堂を建立し、自称「東京都公認」の水子寺となっている。

### ⑤ 埼玉県 紫雲山地蔵寺

橋本徹馬が戦後すぐに刊行した『紫雲』に愛読者が寄せた身の上相談に、水子で悩む中年女性の相談が多いため、1971年9月18日に落慶式を行い、1万体を秩父の16,000坪に祀っている。10年未満で敷地全部に奉納地藏が並び、新たな供養地を造成した。講組織を作っている。

### ⑥ 鎌倉市 長谷寺

2万体の水子地藏がある。毎月4日は供養の日で、約100人の女性が集まる。

### ⑦ 長野市 善光寺の間引き猶子

善光寺では、『月水之大事』なる墮胎符を配っている。墮胎符には、墮胎は極重の悪事であるが、そのほかに方策がないならば、ただ、弥陀にすがることによってのみ、極楽に行かれると説いている。<sup>(40)</sup>

### ⑧ 京都市 化野念仏寺

戦後、北海道旭川から訪れた老夫婦の発願から水子地藏を祀り、1970年御堂を作ったことから始まった。同寺の分身として、久留米・名古屋・四国など10ヶ所に水子供養会がある。

境内の石塔群は、境内や化野に散乱していたのを明治中期中山通幽師があつめたものが、いつのまにか西院の河原と呼ばれ、8月の地藏盆に万灯会がおこなわれるようになった。6月24日は水子総供養となっている。

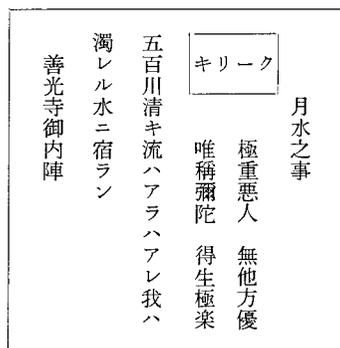


図3 善光寺の墮胎符

経木料は1,000円, ちょうちん奉納料3,000円。

〔提灯供養者の性別〕 全34件中, 女13名, 男女15組, 男1名, 医療法人1。

〔参拝者の年齢〕 月参りに来る熱心な人は, 50歳以上の女性に多い。若い人は観光のついでに立ち寄るのが多いという。

となり, 女性または男女の旅情を含んだような供養が展開している。

#### ⑨ 京都市嵯峨野 直指庵

訪れた若者が悩みや希望を書き綴った「思い出草」に中絶への後悔を書き綴る者が多いので竹林のなかに水子地藏寺を建立した。圧倒的に若い女性の参拝が多い。

#### ⑩ 株式会社幼聖苑

1949年に個人がはじめたのを譲りうけ, 1979年に株式会社幼聖苑が水子地藏をはじめ, 現在数千体の地藏尊が建立されている。

#### ⑪ 京都市六道辻 西福寺

六波羅地藏といわれ, よだれかけをした子育て地藏があり, 千羽鶴がかかり, 水が供えられている。別に「〇〇家水子之霊」と書いた, 子供が二人足元にすがっているような小さい地藏が多く奉納されている。

供養の仕方は, 1週間以上あけて, 13回拝みにきて塔婆をたてる。

#### ⑫ 京都市 清水寺

右手に子供を抱いた水子観音像がある。供物は, おもちゃ・洋服・靴・雑誌など。1,600本程度の塔婆が, まわりの三方に置かれている。うち53件を調べると,

〔供養者の性別〕 女27名, 男女9組, 男17名, 不明1。

であった。

清水寺に限らず, 京都の水子供養は, 「家の障り」と理解する傾向があり, 二人で来ても男の名前が供養主として出ている。家意識が強いことが特色である。

#### ⑬ 京都市 壬生寺

子供をだき, 足元に二人の子供がまつわりついている水子地藏があり, まわりによだれかけをした小さな地藏が多くある。小さい地藏のよだれかけには, 名前・年齢・誕生日が書いてある。供養者名が夫婦であるものが多い。供物はない。

#### ⑭ 京都山の内の水子供養寺

伝教大師生誕地で, 永代水子供養納め, 納め料1万3千円～永代母子尊像御分身供養料10万円～(〇〇家水子之霊位+父母名)という。

#### ⑮ 京都市 御室霊園

1976年3月に水子供養の会が作られた。地藏は新しく, 赤子をだき, 足に一人まつわりついている。まわりに「〇〇家水子菩提」と書いた小さい地藏が並べられている。

#### ⑯ 京都市 六波羅密寺

1989年より水子地藏をはじめた。「〇〇家水子之霊」と書いた塔婆が奉納されている。中年女性の奉納が多い。

#### ⑰ 大津市 三井寺円満院

「滋賀県三井寺円満院では、毎月23日を水子供養の日と決め、水子の位牌を別室より取り出して、本堂に並べ、お経をあげる。位牌に向かって、『先月はこられなくてごめんね』などと語りかける女性の姿がある。水子相談のテープもある」と『日本民俗文化大系』で紹介されているが、<sup>(41)</sup>これは宣伝広告の成果であった。『サンデー毎日』の広告によれば、<sup>(42)</sup>「このテーマは人間の「いのち」の尊厳に関わる問題である」として、八代英太と対談。「心の原点」が大切だと供養をすすめる。ついでに、火曜・土曜におこなっている「盛運学」なる人生相談と「日本のマナー通信教育講座」、さらには御先祖供養壇12万円の宣伝、厄除祈願1万円の通信販売の広告をしている。

とくに水子供養をすすめている。水子の因縁で原因不明の病氣、不幸つづきになり、子供に関する諸問題（非行、暴力化、登校拒否、情緒不安定）があるとし、それが子（第一影響）、父母（第二影響）、末代（第三影響）に影響するという。モノのように水子を捨てたら仏法に説く「悪因悪果」だと嚇し、住所年齢氏名を書いて永代供養料3万円を送るようにいう。二霊だと4万円、三霊だと5万円と割引となる。「法名を選び、仏牌を作り、その都度法要をつとめます。位牌は円満院のお堂に安置する」として、秘密が守れる。水子の忌日は必要ないと昔の忘れかけた水子に悩む人を安心させ、宗派宗教に関係ないという。匿名も可能という。千年の歴史のある門跡寺院で天皇の位牌を祀り、円山応挙の名作をおさめた美術館を持つと宣伝している。

事実は、戦後、三井寺から分離独立し、皇室との関係も断たれ、檀家もない財政基盤の弱くなった門跡塔頭の、一つの生き残り経営戦略であった。

#### ⑱ 大和郡山市 極楽寺

1981年から。檀家がしてほしいというから水子供養をはじめた。3/8（建立日）、8/23に供養をしている。

#### ⑲ 生駒郡平郡町 真言宗煥原山金勝寺

水子千駄地藏（中央が水子慈母地藏尊）の案内として下記の文章が出されている。

（略）戸籍にもいれられず、親を求めてさまよい続けます。（略）供養することによって因縁がとかれ（略）一家の幸せが訪れるのです。（略）水子一霊に対して一駄となっておりますが、一人で何人かの水子がある場合は御遠慮なく申し出下されば御相談に応じます〔分納可〕（略）匿名又は仮名にて申込を受付ます。其の折、一切連絡（法要の連絡等）してはしなくない方は、申込み書に「連絡不要」とお書き下さい。

1体 3万円 2体以上、1体につき 1万5千円

#### ⑳ 豊中市 真言宗真如院

因縁によって運が決まるので、先祖の霊をなぐさめて運を開くという。水子の霊は、最下層の泥の中に埋まっており、運を開くためには重要だ。そこで接心をする。7年後をお告げで聞き供

養をする。お金をたくさん支払うほど先をよくみてくれる接心ができるという。

#### ㉑ 大阪市野江 姫神社

弁財天による子安貝信仰で水子供養をする。

#### ㉒ 大阪市天王寺区 瑞雲山顯祥寺

3mの水子地藏（右手で赤子を抱え、左手で赤子の頭をなでる像）があり、89体の水子地藏が奉納されている。1体10万円。水子供養と安産祈願のため。1978年頃より、檀家や知り合いから水子供養を頼まれたので、ここらでは一番早くはじめた。高さ40cmの地藏に建立年月日、施主、〇〇家の水子之霊と書いて奉納する。オショウネン入れが1万円。年間管理費1万円。

別に、経木塔婆でおつとめする方法もある。1万円。こちらは、若い人が多い。住所を聞いて、後日、彼岸の水子地藏の行事を通知したいが、住所を教えてくれないし、一度きりが多いという。

#### ㉓ 高槻市 総持寺の水子供養

絵馬25件中、1件のみ、女性51歳、水子供養とあった。水子観音がある。

#### ㉔ 箕面市 勝尾寺の水子観音

左手に赤子を抱き、足元に二人の赤子がすがっている水子観音像がある。玩具と千羽鶴が供えられている。もともと慈母観音とっていたのが、1954年11月3日に誰かが水子供養をはじめ、人づてにふえ、水子観音とよばれるようになった。1970年の万博の年に、ドライブウェイができ、参拝者が増え、各自供養料を持ってきていた。1975年に供養料を統一しようということになった。

#### ㉕ 茨木市 弁天宗冥応寺

1934年に商売繁盛関係ではじまるが、1960年より水子供養をはじめ、1979年、約12億円で水子供養塔をたてた。懺悔と供養をすすめる。20万体が奉納できる。3万円。「楽になった」といって帰る広島の女性。3人おろしてそのうちの2人から恨みを受けているとあって、白い顔をして来た学生が、「ここにきてすっとしたワ、これで楽に就職できるワ」と言って帰っていった。こんなことも多らしい。子供の登校拒否などで、困った年配の女性も多い。

#### ㉖ 兵庫県宝塚市 中山寺華嚴院

安産の寺として犬帯の授与で有名な西国三十三ヶ所の中核、三十三ヶ所御詠歌を読むときの「休憩寺」とよばれる観音巡礼の中核である。この塔頭で水子供養がおこなわれている。

#### ㉗ 神戸市西区 地藏寺

1965年頃、先代のとき、ちょくちょくお参りに来る人から水子供養をして欲しいといわれたので始めた。命日・住所・産まれたらつけるはずだった名前を聞いて戒名をつけ、塔婆に書いて供養する。また地藏を奉納する。30%が年1回おまいりに来る。その他は最初だけの人が多い。20～24歳の女性が多く、親に内緒で来るので位牌のかわりに、お守りを渡す。60歳代の人も多い。流産の水子を供養しようというのは少なく、圧倒的に中絶が理由であった。

1972～1973年にブームがあった。現代では特殊なことではなく当たり前になった。その結果、若い人のなかにはまったく罪の意識を持たず、仕方がないから来た、まるで一つの行事、他人の

行事に参加するような、場違いの人が来るといふ。そのときは住職が説教する。

住職への相談話によれば、「何度も子供を下ろした女性が、母乳がとまらず、産婦人科で検査しても原因不明だった。医者が「水子供養」をしたかと尋ねた。それで水子供養をしたところ、正常に戻った」という話もある。

㊸ 兵庫県揖保郡 本仏寺

仏足堂が水子堂とよばれ、「水子の喜ばれる祀り方」「水子供養」などの貼紙があり「水子ちゃん甘いお菓子ばかりをたべすぎて、栄養がかたよっているということです。これからはパン、牛乳、乳酸菌など他のものをお供えして下さるように仏様からのお告げがありました。よろしく！」とある。水子地蔵が160体ある。

〔奉納者性別〕 女21, 男女4, 男3, ○○家62, 釈○○之霊(戒名)7, 不明少々。

一つの家が2〜3あることもあるから水子一霊に一つの水子地蔵ではないか。独身女性が1ヶ月に1回のわりで来るといふ。

㊹ 岡山県倉敷市由加 瑜伽山蓮台寺

厄除けで有名だが、水子供養もはなやかにしている。ぢくびわ子地蔵がある。その下の文には、頭の悪い人―しきび3枚を持って帰り枕につけ、20日目に取り替え5ヶ月続ける。

目の悪い人―水を供えて、その水で5回目をふく。

ぜんそくの人―せん香を供え、灰を持って帰って、一日3回喉をなで、7カ月する。

しもの悪い人―しきび3枚を持って帰り腰につけ、20日目に取り替え10ヶ月続ける。

治った人―しきび・せん香・水をもってお祈参り。

とある。

㊺ 高松市 香西寺 (水子供養とボケ封じで有名)

1978年頃から始まる。2mの水かけ地蔵があり、まわりに40cmほどの水子地蔵が160体ほど並んでいる。地蔵は一体6万円で供養料が別にある。地蔵は○○家の水子霊となっており、一つの地蔵に1体の水子霊が普通だが、5霊入っている場合もある。家によっては、姑の水子と嫁の水子を一緒に祀っている。ぬいぐるみ、人形、風車、ジュース、みかんなどが供えられている。水子には帽子・よだれかけ(○○家と書いてあるものが多い)がそれぞれついている。水子の供養祭が年に何回かある。若い人が多く、一度来たら二度と来ないが、中年の人は毎月来る人もいる。

中絶すると3ヶ月までは病院で処理してくれるが、以後の胎児はアルミの箱に入れて返されるという。それで、寺の裏山に胎児を埋めたり、アルミの箱を寺境内に放置する人がいるという。

〔絵馬祈願内容〕 幸福祈願38件, 水子供養17件, ぼけ封じ15件。

うち〔水子祈願者性別〕 女1名, 男女8組, 男2名, 家族1組, 不明・なし5。

〔水子祈願内容・重複あり〕 ごめんね3, また来る1, 元気でね1。○○家水子御霊1, 子授け祈願1, 成仏してください1件。

どちらかという、夫婦で目に見える形で供養して納得するものが多く、家の水子という意識が

ある。陽性である。

### ㉑ 愛媛県丹原町池田 遍照寺

1984年に地元の人々から水子地蔵を立ててほしいということで、翌1月につくられた。大きな水子地蔵の下に赤ちゃんをだいた48の水子地蔵が祀ってある。台座には女の名前か、男と女の名前、または〇〇家としてあるのもあった。

何十年も前におろした水子の供養に、「障りがある」といって突然やってくる女性もいるという。

### ㉒ 松江市八幡 道籠山迎接寺

1991年より、近くの産婦人科の依頼で水子地蔵をはじめた。墮胎した女性が、医者に相談するからだ。とくに、おろした病院の近くで祀りたいという。したがって、地蔵はその産婦人科医院の寄付でたてられた。

### ㉓ 別府市 得生寺

住職は元産婦人科医師で、中絶手術を多くやり、それで仏教大学に入り、住職になって水子寺をはじめた。

### ㉔ 福岡県 篠栗霊場

近年水子供養の信仰は盛んになっている。それは単に子供を授かるため、あるいは胎児の供養のためというだけでなく、個人や家におこるさまざまな不幸、とくに病気は、胎児を十分に祀らなかつたためと信じ、病気の治癒祈願あるいは災厄除けのため、さらには家の招福のために水子地蔵を祀るのである。福岡市近郊の篠栗（粕屋郡）は、元来修験道と結びついた聖地とされていたが、近年になって水子地蔵の建立やその祭祀が盛んで、多くの信者の参拝がみられる。参拝するのは女性が多く、福岡市や北九州市在住の密教系祈禱師から、篠栗参りを示唆されて信仰を始めることが多い。<sup>(43)</sup>

## 5 水子供養絵馬の具体例

### (1) 東京都芝 増上寺西向観音

1993年2月20日と9月3日に絵馬の調査をおこなった。その結果を報告する。

2月20日 調査

〔絵馬種別〕全137枚

合格祈願 93、健康祈願 10、幸福祈願 4、商売繁盛、勝利祈願、出世祈願、不動産取得祈願 各2、借金増やさず祈願、守護祈願、結婚祈願、子授け祈願、無記入 各1、水子供養 17。

となっている。東京タワーの下、芝公園ということもあり、2月という時節がら、初詣・合格祈願が圧倒的に多い。しかし、健康・幸福・結婚・子授け・守護などのなかには、水子を供養することによって、健康・幸福・結婚・子授け・守護を得ようとするものがある。

〔祈願者性別〕（水子供養17のうち）女3，男女3，男1，不明10。

〔水子絵馬内容〕（のべ数）

ごめんなさい・許して 8，安らかに・成仏してください 5，また来ます 3，  
忘れません 3，元気に 2，（私達の）幸福祈願 2，結婚祈願 1。

〔水子絵馬の具体記述の一部〕

- ・一年ぶりに来ました 私しあわせになってもいいでしょうか、私もしあわせになりたい あ  
あなたのことは絶対におすれませぬ 又来ます えつこ
- ・司 おめでとう 貴方が生まれていましたら2回目のお正月でしたね、ゴメンナサイ なか  
なかお父さんは忙しくてこれませぬ でも、今度来る時は2人で来れるようにします
- ・あなたの命をほうむった私を許して下さい、あなたが生まれてくる予定だった8月初めには  
必ず水子供養に来ます、私とあなたのお父さんをイツマデも見守って下さい、もう二度と同  
じような繰り返しをしません、ゴメンナサイ NARU & Sue
- ・りな ごめんな（略）おまえを育てていく自信がなかったからすごく迷ったよ、けれども自  
分の子供を見捨てることはできなかった（略）どんなにつらいかこらえられるかわからない  
けれども お前を二人で育てることを決意した。（略）これから何年たつたとしても、お前  
を一時たりとも忘れてたりしない…… 愛するりなちゃんへ パパより  
りなちゃんごめんね、あなたを守ってあげられなかったママを許してね（略）あなたはい  
つでもママの子よ、パパと二人であなたを見守っているから、さみしがったりしないでね、  
泣いちゃダメよ（略）ママはあなたのパパと一緒にあって一生あなたのことを二人で愛し続  
けるから（略）  
愛するりなちゃんへ 永遠に安らかに眠ってね!! ママより
- ・未 chan へ 1年に一回しかこれなくて、ごめんね また今年二人で来ました パパも反省  
しているみたいなので許してあげてネ、また来ます、本当に□□ごめんなさい

9月3日 調査

〔絵馬種別〕 全169枚

合格祈願 5，健康祈願 4，幸福祈願，結婚祈願 各3，安産祈願，勝利祈願 各1，  
無記入・不明 1，水子供養 151。

〔水子供養祈願者性別〕（不明を除く）

女 15，男女 22，男 3。

〔水子絵馬内容〕（のべ数）

ごめんなさい・許して 23，（私達を）見守ってください 21，忘れません 11，  
また来ます 7，元気に，安らかに成仏してください 各4，病氣平癒祈願 2，  
（私達が）見守ります 1。

〔水子絵馬の具体記述の一部〕

- 平成5年6月30日にお別れしてしまったけれど、あなたのことは一生忘れません。  
絵美 7/9/ごめんよ!!……チャン 勝/あなたのお父さんお母さんより  
こんどは絶対あなたの生まれ変わりだと思う
- 今日、一緒に来た人と家庭を持つつもりだけど、お前達の事は忘れません。 成伸
- I T・H あれから1年たちました。君のことは忘れません。いつまでも 二人のことを見守っててください。
- H夫のおじいちゃんが奇跡的にも助かりますように…… M  
もう一度 家に返してあげて下さい。お願いします。 S 平成5年7月31日
- Dear My Baby!! 3ヶ月もこれなくてごめんネ。元気にしていますか? 私は疲れました。  
(略)それから今度生まれかわった時は、みんなで仲良く暮らそうネ。/PaPa と MaMaを許して下さい。 from Hatsue H 5. 7. 25
- 生まれてくる子を、あなたの分までしっかりと育てていきます め+お 5. 7. 31
- H 5. 7. 24 (略)本当にごめんなさい。(略)いっぱい大すきなんだよ。生まれ変わってもう一度私の所に来てね。2/15に生まれる予定だったんだよね。(略) F C
- 元気へ/冬はこれなくてごめんね。今日は天気がいいからママも気分がいい/今、どうしていいのか分からない。元気。ママに力をちょうだい/いつまでも2人で頑張ろう  
H 5. 5. 21 T子
- 6/14 くもり 来るのがおくてしまい申訳ない。たぐちのばかとけんかしていたんだ。/やさしくしてくれないよ。(略)又、来ます。ごめんなさい。(略)元気にしてして下さい。牛乳とクッキー食べてね。
- 司へ 司ごめんなさい 同じくり返しはもうしたくありません  
パパとは別れることにしましたが、司の事は忘れません  
天国でみんなに可愛がって もらってネ  
お母さんを見守ってください。 H 5. 9. 1 みちこ
- 名前も付けずにごめんなさい。 父母  
病気早くよくなる様に 5/7/3
- 晶へ(略)晶が暗闇の中で泣いているようで。(略)ここに来れば会えるから。(略)  
由紀子 8/13
- To まことくんへ/これで5度目のお参りだね!(略)許してとはいえないけど…/なっとくしてね。/パパとママは別れましたけど…/少なくともわたしはあなたのことを忘れません。/いつかあなたの妹や弟ができたら…/きっとあなたのぶんまでかわいがるから…/ごめんなさい!  
I ゆかり
- 今年で初めてきた(略)おまえは元気か/今年は2人でこれたから良かった。(略)俺の右足がだめになったり、身のまわりに悪いことばかり起きて…/5年もほったらかしにして

- (略) バチが当たったんだよな。／きっと、あの世で 元気でな。誠 5/6/30
- ・前略 お元気ですか／俺たち二人は元気だから きっとお前も元気がいいと思います。(略)  
三人で気持ちよく生きていこう。(略) H 5. 5.30 ♂+♂
  - ・6月8日 赤ちゃんへ／いけない恋で あなたが、お腹にでき、好きなのに好きな人の子供、  
あなたを生めなくて、ごめんなさい……。好きになったことはこうかいしていないけど 生  
めなかったことにこうかいしています。今、とてもつらいの……ママをゆるして……／そし  
て、たすけて……あなたの分もしあわせになりたいのに……ママに力を下さい…… Aこ
  - ・生まれていれば 今日が3才のお誕生日ですね。あなたを生めなかったバツなのでしょうか、  
大好きな人には一緒になれませんでした。ごめんね。本当にごめんなさい。忘れないからね。  
一人でも、私は、生きてゆくから ♂
  - ・ゆみちゃん 一日も早く帰ってきて下さい 5/6/18 ♂

調査中において、後ろから若い男の声で咳払いが聞こえた。男は、私の右下にあった御札を一  
つとっていった。振り返ると、紺のスーツの後ろ姿が、足早に本堂に入っていった。とった御札  
を奉納し、新しい御札に何か書いている。毎月とか季節ごととか、御札をかけかえに来るようだ。  
それがビジネスマン風の男である点が、現代都市の風景を象徴する。

ゴメンネという記述が多い。ゴメンネは水子にしたことではなくて、毎月毎年の供養が遅れた  
のでゴメンネというものが多い。

## (2) 箕面市勝尾寺の水子観音

### (山門を入った所の看板)

悲しくも父母の慈愛に背かれて、水子のうちに捨てられてしまったあかちゃん。おとうさん、  
おかあさんと、力の限り助けを求めても、声にもならぬまま依るべき身を失い、行方も知らず  
ただ一人淋しくさまようあかちゃん。もしあの時あの子を思い切って産んでいれば、今頃は  
暖かい母の腕の中に抱かれてすくすく育っていることでしょうに… かわいくも笑いかけてく  
れることでしょうに、それなのにあの子は… 甘える事も出来ず、西の河原で「一つ積んでは  
父のため、二つ積んでは母のため」と、父母の回向の塔を積んでいるとは。今父の手で、母の  
手で、西の河原に迷うあの子の供養をしてあげてください。

当山の水子観音様が、母の慈愛でそっとあの子を抱き上げて下さる事でしょう。あの子もき  
っと父と母の罪を許し、お観音様の腕の中で安らかに成仏してくれる事でしょう。

お観音様の御慈悲におすがりすることで、あの子も、そして私たちも救われるのです。

### (水子観音前)

悲しくも父母の慈愛に恵まれず 水子のまま命を失った赤ちゃん。「お父ちゃん!」「お母ち  
ゃん!」と、力の限り助けを求めても、声にもならず、寄るべき身を失い、ただ一人さまよう  
姿は、なんと悲しいことでしょう。

今、父の手で母の手で亡き子の供養をし、観音さんのお慈悲を授かり成仏させてあげましょう。供養のあとでその罪を謝し、観音さんに水をかけ、お菓子やおもちゃを供えそっと帰っていかれる姿の、また何と清らかなことでしょう。

母のこの姿こそ、慈しみの心、愛の心を持つ子育てにもつながるのです。全ては、観音さんの大きな慈悲心に生かされて…

[絵馬種別] (のべ数)

合格祈願 453, 病気快癒 55, 勝利祈願 39, 就職祈願 38, 開運祈願 20, 安産子宝祈願 19, 商売成就祈願 18, 健康祈願 12, 良縁祈願 11, 夢祈願 7, 家内安全 6, 水子供養 4, 交通安全 1。

絵馬はよい事をお願いするもので、水子はないのが当たり前という。

### (3) 中山寺華蔵院

水引地蔵には、菓子やぬいぐるみが供えてあり、水子への言葉を書いたよだれかけをしている。その横には「〇〇家の水子霊」「〇〇家の□□霊」(戒名がある)と書いた薄木塔婆があった。

絵馬掛は、入口右、水かけ地蔵前に420個(15×8本の釘)と、左手奥に390個(19×10本の釘)ある。無作為サンプル472件を取り出して、記述内容のべ数をみると、

[祈願者性別]

女 88, 男女 243, 男 19, 家族全員 31, 不明・署名なし 91。

[水子供養内容] (のべ数)

安らかに・成仏してください 82, ごめんなさい・許して\* 63, (私達を)見守ってください 60, また来ます 52。

(忘れません, 元気に, [私達の]幸福祈願, 結婚祈願の内容項目は中山寺では未調査。\* 女性一人の場合「ごめんなさい」との記述が多い。なかには、絵馬いっぱい「ごめんなさい」を書いているものがある。)

[水子供養の具体記述の一部]

- ・私が悪うございました。水子さん助けて下さい。
- ・U家水子様、供養します もう今年で2才ですね。お母さんはがんばっています。また来るからね。
- ・まゆみ許してくれ。ゆりの病気なおしてあげてください。

お + お

### (4) 福岡県篠栗霊場呑山観音

篠栗霊場新四国八十八ヶ所のうちの呑山観音は、英彦山回峰修行(英彦山～福知山～野美(呑山～若杉山～三郡山～宝満山)の難山であるが、そうした密教土壌の上に、水子の占いや水子供養が有名になっている。ここでは水子供養について報告する。

〔絵馬種別〕(のべ261枚)

健康祈願 51, 合格祈願 49, 家内安全 35, 商売繁盛 12, 幸福祈願 1, 水子供養 113。

〔水子供養の祈願者性別〕

女 45, 男女 41, 男 1, ○○家 4, その他 1, 不明署名なし 55。

〔水子供養の祈願者住所〕

東京都 1, 愛知県 1, 岡山県 1, 福岡市 4, 佐賀県 1, 飯塚市 1, 行橋市 1, 田川市 1, 北九州市 2, 穂波町 1, 那珂川町 1, 三池郡 1, 直方市 1, 鳥栖市 1, 八女郡 2, 鹿児島市 1。

〔水子絵馬内容〕(のべ数)

安らかに・成仏してください 49, ごめんなさい・許して 28, 幸福健康祈願 18, 安産子  
供授かり祈願 15, また来ます・忘れません 13, (私達の) 病氣平癒 8, (水子の) 幸福  
祈願 3, 合格祈願 2, (私達を) 見守って 1。

(「水子さま」「水子ちゃん」「水子よ」という呼びかけが多い)

ほかに、呑山・地藏寺は脱サラした河波氏が1974年に建てた。ここにも水子供養がある。

## 6 水子ビジネスの実態

### (1) 水子供養広告から

◎眞霊正導教大阪別院のチラシでは、「テレビ週刊誌で話題の『ガン切り寺』身上相談」というのがある。難病と不運のおもな原因として、「先祖からの悪因縁・墓相の障り・嫁ぎ先の因縁・死霊生霊のたたり・家系の因縁・自己魂の因縁・水子の障り・家相の障り」があり、「浄霊解脱」が必要なことをとき、「開運招福」に導くという。そして、「本人がこれない場合はお写真をご持参下さい」とある。

高島易断総本部天神館のチラシも同様で、「病氣・子供の問題・夫婦の問題・不運」とあって、この不運のなかに、「水子のさわり」があるという。

このように商売気の多い新宗教関係の勧誘にくらべ、寺院は積極的には勧誘していない。むしろ、先述の寺をみていると、人々が水子供養にといっって押しかけてきて、とまどっている。そういほうもの、かなりの収入になるのか、それなりの広告はうつようだ。たとえば、『タウンページ 北河内版』(1993年)の広告には、

厄除薬師如来・水子子育て地藏尊の寺	枚方市	真言宗	和田寺
腹帯・納骨・水子供養の寺	東大阪市	真言宗	観音寺
水子供養予約申込み下さい	枚方市	禅宗	正俊寺
水子供養・ペット供養	寝屋川市	日蓮宗	静照寺
水子の御祈願・安産・子安・子育て・子授	大阪市		珊瑚寺

とある。北河内はこうしたことが比較的盛んである。人口規模の大きい『タウンページ 神戸版』（1993年）をみると、

水子供養・水子地藏尊	西区	地藏寺
水子供養・安産腹帯・中風除・ぼけ封じ	中央区	大龍寺
因縁霊視・水子供養	中央区	真言宗 龍玄寺
水子供養・四柱推命	中央区	法徳寺
水子の御祈願・安産・子安・子育て・子授	大阪市	珊瑚寺

などが載っている。

## （2）水子供養の著作、および託宣活動

松尾空心『妖説水子地藏』<sup>(44)</sup>など水子供養に関する出版も少なくない。大抵は、仏教説や『古事記』の蛭子を水子の祖とするなど、古色めかしたこじつけが多く、水子供養が最近の流行であることは、当然触れられていない。大奥絵島事件・八百屋お七・お岩・唐人お吉など、講談や歴史物語で有名な人物を、すべて水子に結びつけて、いかにも水子の信仰に由緒があるかのごとく述べられている。<sup>(45)</sup>

そうして、「『昭和〇年〇月〇日 帰幽 □□□童子の霊』と位牌を作り仏壇に飾る。そして『甘露の雨法』という聖経を唱える」とか、「水子は生まれ代わるから、墓はつくりず、先祖の墓と一緒に埋めて祀る。また塔婆を立てるだけでもよい。床の間に線香・御飯・水を供えて話しかけるのもよい。週一回と水子の命日に、手を洗って、30分正座し、呼吸を整え、『舍利禮文』<sup>(46)</sup>を読む。三周忌までする。」<sup>(47)</sup>など、仏教知識の拡大解釈が多い。また、供養方法は、普通の仏教供養方法にすぎない。<sup>(47)</sup>そうして、

- ・経木塔婆（〇〇家水子之霊追善と書く）
- ・水子の位牌は仏壇と同格にできない地方もあり、寺で預かることが多い。仏壇なら下に置く。
- ・仏壇がない場合、身近な高い所に置く。
- ・複数の水子でも一つの位牌で祀ってよい。個性がないから。

などという。そして、水子地藏の祀り方として「地藏護符に、線香・ローソクをあげ、乳頭を含ませた清水（乳水）を供え、夕方にも供えて吞むことを21日間する」という。

こうした寺院や出版の経営を行う「水子供養ビジネス」には、占い師、または託宣の僧侶が関与していることが多い。たとえば、

篠栗新四国霊場28番札所大日寺の堂守・庄崎良清は霊能祈禱師として知られている。良清の元には朝早くから遍路たちのオループがやって来るがそれとは別に良清のオミクジを求めてやって来る人々がいる。そのクミクジを求める人のなかに、水子供養がある。水子だと良清の声は急にか細くなる。「わたくしたちは暗い暗い冷たいところにいます」と語りだす。

また北海道上川郡清水町旭山の石井雪野の場合、夫が腰に痛みを感じ水子ではないかと相

表3 篠栗霊場大日寺の庄崎良清の占いと水子

No.	客	客の相談内容	良清の出したオミクジ(カミがかりによるお告げ)		備 考
			相談事の原因	解決法など	
1	老婦人	娘二人の縁組みがほしい。 長女は1947年生まれ。	(中略) 水子。はなやかな花嫁の姿をねたむ。	(中略) 水子の供養。良清が1週間、供養の行をする。	家は真宗。
4	中年婦人	身体の不調, 耳なり。		(中略) 水子の供養が少ないから身体が不調なのではない。	水子の位牌を作っている。
8	30代の男性	精神異常, 2年来。最近2ヶ月大学病院に入院。	(中略) 先祖供養と水子供養が足りない。	(中略) 先祖供養と水子供養をすること。	姉二人につれられてくる。次男だが家を継いでいる。
13	中年婦人	長男が金銭的にルーズ。正常に戻ってほしい。	先祖供養と水子供養が足りない。	一心にすがり因縁消滅したから良くなる。金銭的にも恵まれるが、これまでの因縁で2か月は苦しい。	塩を1週間ふって祈願した後の再訪。
14	老婦人	①長男が就職しない。腰痛・縁組み。 ②次男。仕事と縁組み。 ③三男。腰痛と縁組み。	(中略) ①, ③の腰痛は水子供養が足りないから。 ②の縁組みは水子供養が足りない。	一心に願った恩徳で、ひらかれてくるであろう。さらに龍神と水子の供養をせよ。	
18	中高年夫婦	19歳の孫が自閉的。風呂場に包丁をもって閉じこもることあり。	水子。	(中略) 水子供養せよ。	孫の父親は自殺している。
19	中年婦人	精神異常, 身体不調。霊の宿る人形の供養の依頼。	先祖と水子(倉庫に放置してあった人形に多くの霊が宿っている)。	先祖霊たちの供養へのお礼をのべる口寄せと快方へ向かう旨のお告げあり。	人形を持参。
20	中年婦人と20代後半の息子	①息子の転勤希望。 ②息子の縁組み, 家族の健康祈願。		相談内容とは別に家破いと水子に対する流し供養のお告げあり。	

(藤田庄市『拝み屋さん—霊能祈禱師の世界—』弘文堂, 1990年, 158~166頁より抜粋)

表4 名古屋の森下永敏の占いと水子

No.	信者の性別年齢	そのきっかけを作った相談内容	永敏の指摘, 判断内容		備 考
			原因とその周辺	解決法とその結果	
4	26歳男性	①母親が交通事故。ケガがなかなか治らない。 ②本人の腰痛(略)	①水子の障りと水神の崇り。井戸を空気抜きしないで埋めた。 ②祖父の兄の霊が供養を求める。	①21日間の水子供養。水神におわびし, まつる。先祖供養も。 ②千巻心経で供養。悪化していた腰は良くなる。	永敏の正式な弟子となり, 得度もうける。
5	45歳男性	ウツ病, センソク, 手のふるえあり。	先祖の供養不足。とくに父母。水子3人の不成仏霊あり。	21日間の供養に通う。	

(藤田庄市『拝み屋さん—霊能祈禱師の世界—』弘文堂, 1990年より抜粋)

談した夫婦に、「水子、水子というが、この子は立派な仏」「死産でもホトケで生まれてホトケで死んだ。魂は生きている。尊いホトケの魂であることを教えてくれている」という。

名古屋の森下永敏の12例中2が水子であった。<sup>(48)</sup>(ほかに、表3・表4)

また、高松市の某占い師は、「1960年代後半から相談が来、相談は全て女性である。若い人が多いが、中年の人では、墮胎・流産・死産の後、9～10年たった主婦が相談に来る。霊障が出てから来る人が少なく、良心の呵責で来る人の方が多い。何回も墮胎した人の場合、最初におろした子を気にする傾向がある。水子に名前をつけたり、戒名をつけて仏壇で拜む人も多い。水子が自分の所に生まれかわることを期待する。墮胎経験者は、不幸をすべて水子のせいにしたがる」という。具体的な相談例は、

- ・(中学生の女の子数人)本人は来ないが、周囲の者が霊障を心配してくる。本人は妊娠を友達だけに相談している。
- ・(30代の女性)結婚の半年後に交通事故でノイローゼとなり、その間に妊娠中絶を3度くりかえす。後、本人と子供に霊障があった。
- ・(40代の女性)若い頃に中絶し何事もなかったが、息子が中学2年になって水子がついた。

などである。相談料は三千元～であり、どちらかという、霊障を心配して女性一人で来る陰気な感じが多く、絵馬を書くような明るさはない。

こうした水子供養の実際は我々の周りにある。私の受講生のなかに実際に水子供養をおこなっているという学生がいた。その報告によると、

京都のよく当たると評判の高い占い師を母が訪れた折に「水子供養をするように」といわれた。母は、水子は毎年供養しているつもりだったが、「まだ水子の霊は家から離れていない。水子の霊というものはいつまでも家においておくものでない」ということで、指示の通り供養した。

厚紙で人形をつくり、そのために一日1合のご飯をたいて、お茶とロウソクとともに供え、話しかける。21日間おこなった。そして、満潮のときに西の方角の川で、人形と溜めておいたお茶、花びらの多くついた花を流し、「これで縁が切れたよ。生まれかわって楽しく生きるんだよ」と声をかける。

という。

### (3) 新宗教と水子霊・先祖霊

ここまでみてくると、水子供養の流行をささえたのは、人々の要求を受け入れた密教系寺院であり、人々をあおったのが、易学・仏教系の占い師であった。なかには、積極的に水子の経営に乗り出す新宗教もあるが、無作為抽出によるアンケートによれば、下記の結果となった。

大部分は、水子霊より先祖霊を問題視しており、この水子供養ブームを新宗教がこぞってささえたわけではない。

表5 新宗教と水子霊・先祖霊

宗 教 名	水子霊をいう	先祖霊をいう	説 き 方	始めた時期
姫 端 麗 会	△	○	先祖霊には感謝の誠を	1960年 戦後?
神 一 条 教	未回答	◎	この世は因縁の所に生まれかわる。色情因縁は怖い	
天 地 之 大 教	△	○	墓相を中心に考え、特別視する心要はない	—
宇 宙 元 始 神 教	未回答	△	家筋のなかで魂を重要視する	
金 光 教	×	未調査		
心 0 会 教 団	×	◎	祖神として継承をとく	
天 理 教	×	○	人間の主体としての魂としての先祖霊	
創 価 学 会	×	×		
オウム真理教	×	未回答	堕胎は悪行	
黒 住 教	○	○	水子も先祖も神の子	
世 界 心 道 教	◎	○	水子の残念な思いを霊祭りが必要。先祖には感謝	1983年
太陽を信じる	○		水子霊をよびダルマに入れて太陽に昇天させる	
?	◎	◎	病人のハンカチで調べる。子宮と出ると水子霊だ	
南 部 無 量 宗	○	○	あまりにも不浄霊が多すぎます	
女 神 の 会	△	△	母神への信仰が前提である	
弁 天 宗 冥 応 寺	◎	○	人生の流れの元が先祖。水子は救わないと障りがある	

## 7 考 察

### (1) 本報告のまとめ

以上の概観から水子供養の現状に関して、次のことがわかった。

- ① 堕胎・間引きの民俗から考えて、また仏教的理由からも、日本では水子供養する文化的ポテンシャルは全くない。水子供養は戦後、優生保護法による堕胎がしやすくなったことと、医学の進歩・子供の少数化によって胎児の手術・命名・性別判定、さらには胎教がはやりだして「胎児の人権」が意識されたことの、矛盾の結果起こった。
- ② 女性の産めなかった「痛み」という身体が、前提にある。一方、で女性を産む性として管理する社会経済システムがあり、これに対するフェミニズムの政治闘争のなかで、管理・権力側から、意図的に流された「中絶人殺し論」によって、中継罪悪的な意識、水子供養の土壌が<sup>(49)</sup>つくられた。
- ③ 水子供養が起こった時期、及び派手に水子地藏などをたてた時期(実線)、それが終わる(不明の場合点線)と塔婆供養、信仰団体(講)などができ落ちつく。(記入していない)

図4をみると、1970年に一つのブームがあり、70年代後半から1982年にかけて、激的なブームがあったことが予想される。これは、後述する雑誌記事の動向と一致する。奉納水子地藏が満杯になったあとも、塔婆供養はつづいている。

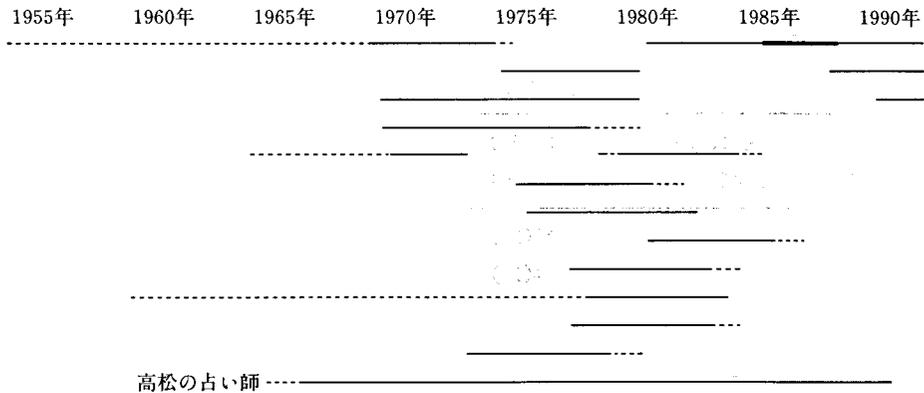


図4 水子供養の開始・最盛期（円熟期を除く）

- ④ 新宗教よりも、密教系寺院が、身の上相談的に占い・託宣活動を行っている例が多い。神道はほとんどない。積極的に売り出したというより、たまたま壇家やお参りの某人が水子供養を願うことをきっかけとして始まる場合が多い。
- ⑤ 水子を専門にした高松の身の上相談・占いについては、圧倒的に若い女性一人のみである。一般の占いで水子が出る場合も、女性一人の場合が多い。これに対して、絵馬・塔婆奉納は、男女で参拝することが多い。京都の場合、観光のついでに女性一人の参拝がある。また、京都をはじめ西日本では「〇〇家の水子」として、家で祀る意識もあり、男性の参拝者名となる場合もある。男女で水子供養するのは最近の傾向のようだ。
- ⑥ 毎月、または半年に一度、律儀に参る人は、水子をわが子のように思い、手紙をかくように、絵馬を書いている。この場合、水子には名づけが行われていることが多い。一方で、一度参れば「スツとする」ということで、二度と参らない若い人も多い。
- ⑦ 参拝者年齢は極端に二分される。50歳以上の女性と、20歳代以下の女性である。高年齢の場合、自分の更年期障害と子供の学業・性向不良などの原因を求めて参拝するケースが多い。
- ⑧ 水子供養の絵馬は、「ごめんなさい・許して」(25%)など後悔の結果「安らかに・成仏」(25%)を期待するものとなり、「(水子を)守護する」「忘れない」「また来る」(合計20%)ことを約束するものとなる。そうして、我が身の「結婚」「幸福」「安産・子授け」「病気平癒」「守護」を期待する論理構造となっている。ただし、東京では、「ごめんね→(私を)守護して」となり、関西では「成仏して→守護して」、九州では「成仏して→具体的な祈願」と、地域色がある(表6)。
- ⑨ 水子供養の絵馬は、「前略」から始まるもの「天気の挨拶」もあり、あの世への手紙としての側面もある。女性の場合、「しあわせになってもよいでしょうか」など迷いや、「パパも反省しているみたい」と男性を信頼しようとして裏切られる葛藤(ex,「疲れました」)、とくに離婚報告を、水子にするものが多い。たとえば、増上寺では正月に「司 おめでとう(略)お父さんは忙しくてこれません」としていた人が、9月には「司 ごめんなさい(略)パパとは別

表6 水子絵馬の祈願内容の構造 [( )内は%, 少数以下切り捨て]

		東京 増上寺	芝 中山寺	宝塚市 香西寺	高松市 西寺	福岡県 篠栗香山	平均 (%)*	構造別 (%)#
私が水子に	ごめんね, 許して	31(31)	63(24)	3		28(20)	(25)	(50)
	成仏して	9(9)	82(31)	1		49(36)	(25)	
私が水子に 対してする	また来る	10(10)	52(20)	1	}	13(9)	(10)	(20)
	忘れない	14(14)	—	0				
	見守る	1(1)	—	0	0(0)	(0)		
	元気でね, 幸福でね	6(6)	—	1	3(2)	(4)		
私のお願い	子授安産祈願	0(0)	—	1		15(11)	(5)	(22)
	幸福祈願	2(2)	—	0		18(13)	(7)	
	結婚祈願	1(1)	—	0		0(0)	(0)	
	守護祈願	21(21)	60(23)	0		1(0)	(14)	
	病気平癒	2(2)	—	0		8(5)	(3)	
合 計		97(100)	257	7	135		香西寺は除く	

注 \* : 一部, 中山寺未調査のため含んでいない。  
# : 百分率平均のため, 合計が100とはならない。

れることにしました(略)お母さんを見守ってください」となっている。

- ⑩ 水子の生まれかわりを期待する絵馬が多い。とくに, 自分の所にもう一度生まれかわることを期待するものが多い。これは, 江戸の墮胎・間引きする合理化と同じで, 墮胎・間引きせざるをえない人々の意識構造としては同じである。ただ, 江戸期は, 世の中にもう一度生まれかわることを期待するのに対して, 現代では夫婦で, 同じ核家族にもう一度生まれることを望むことが多い。つまり, 少数子に対する溺愛型が多い点が異なる。
- ⑪ タタリを恐れる気持ちは, 絵馬には少ない。そうならないための絵馬供養であろう。タタリを考える場合は深刻で, 占いへいったり水子地藏を建立するためであろう。占いにいくのは, 女性一人が多い。
- ⑫ 祭祀方法は特定のものがなく, 陰膳・祓いの人形・満潮の出産・生まれ変わり・西方極楽浄土・十三(虚空蔵)信仰・餓鬼供養など, 民俗・仏教知識が使われている。

## (2) 展 望

以上の結論を, 水子供養の現代史の上のせて展望したい。こうしたデータは新聞や学術文献にはほとんど登場しないから資料にならない。そこで, 雑誌文献から概観をさぐることにする。

戦後の水子供養に関する雑誌の掲載数を一覧すると, 表7となる。「本報告のまとめ」の③でみた, 第一期水子ブームは, 更年期の婦人に静かに浸透したため, 雑誌には大きく取り上げられていない。第二期水子ブーム(1970年代末~1983年)が, 雑誌を賑わしたことがわかる。

表7 雑誌文献にあらわれた水子供養の件数

年	1955	～67	～73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88
件	1	1	1	0	1	3	1	5	1	8	1	3	4	0	6	1	4	1

水子供養記事は、中絶記事が議論を究める1974年に始まり、中絶記事の第二期である1978～1983年に最盛期をむかえる。中絶問題の論議が、中絶の日常化のなかで記事の魅力を失い（消費され）、よりドラマチックな「水子物語」が記事になっていくのである。その変化は80年頃に観光化し、85年頃からオカルト化してくる。

すなわち、初期には「180万の小さな亡霊たち」<sup>(51)</sup>、「中絶天国を旅する小さな仏達」<sup>(52)</sup>だったものが、「水子寺旅情」<sup>(53)</sup>「特別企画 女ごころが救われる美しい水子寺 厳選50ヶ所徹底ガイド」<sup>(54)</sup>などと観光化する。また、オカルト化、霊対策化としては、「女子中学生に大流行『水子のたたり話』のゾォ!」<sup>(55)</sup>「水子霊をニコニコ昇天させる」<sup>(56)</sup>「座談 突然襲った水子の祟り」<sup>(57)</sup>『許してあかちゃん!そして安らかに眠って』<sup>(58)</sup>「確かな供養の仕方はあるのでしょうか」「“水子霊”よ、さようなら!もう一人で苦しなくていい」<sup>(59)</sup>「霊能者が霊視・警告・障児の霊障Q&A」<sup>(60)</sup>「水子供養の『正しい作法』教えて進んぜよう」<sup>(61)</sup>「ワタシの“ミズコ供養”」<sup>(62)</sup>となる。とくに、最近では、男性週刊誌が、水子供養ノウハウを教え、水子供養は女のものだけではなくてきた傾向を示す。

また、水子供養は感性に訴える「絵」になりやすいため、グラビア・写真となることが多い。

さらには、宗教の広告記事がある一方で、「巨大教団追求第66弾『水子供養ブーム』に警告する」<sup>(64)</sup>「水子商法 水子供養の演出でポロ儲けの宗教家たち」<sup>(65)</sup>がある。

これについては、その内容を別論で検討するが、一応次のような流れを想定している。

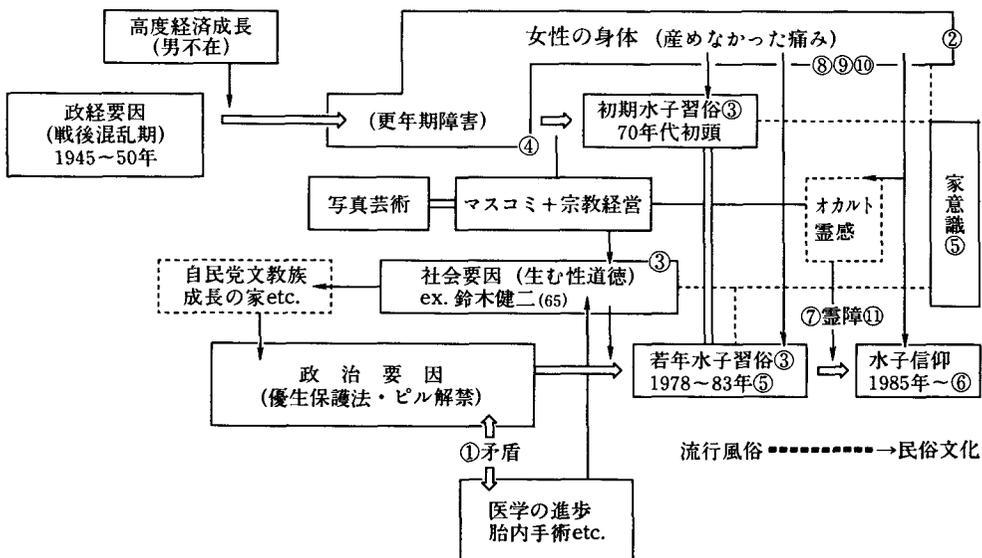


図5 水子供養の発生要因図

戦後の生活苦のなかでの墮胎婦人の更年期障害による水子供養が、高度経済成長が終わった70年代初頭に始まり、これを受けて特定の宗教ビジネスがマスコミを使って売り込んだ。これが広がる前提には、優生保護法の改変やピル解禁が関係していて、その結果としての「絵になる」水子供養を、写真家が捉え、それをまたマスコミが宣伝するという「物語の消費システム」の相乗効果があらわれ、80年代に入って、若年水子ブームをうむ。

そうしたブームがオカルトチックに転換、タタリが強調されてきているなかで、男女とも信仰や、家の障りを恐れるの水子供養に昇華してきて、一つの信仰になりつつある。

歴史人類学的な言い方からすれば、政経要因が社会要因とともに、マスコミの力をかりて、ブームをつくり、その物語がビジュアルという表現の手法とともに、次なるマスコミと宗教経営によって、男も女もからめとられて、産業情報社会の信仰が発生する。

これを、図化して、先述の「報告のまとめ①～⑫」を書き込むと図5のように、概観できるのではないか。

#### 註

- (1) 水子地蔵の新設と繁盛にみられるように、また子捨て・子殺しに示されるように、性をめぐるイメージが、生殖から性の快楽へ転換していること(米山俊直「人の一生」梅棹忠夫編『講座 比較文化 第四巻 日本人の生活』研究社、1976年。坪井洋文「村社会と通過儀礼」『日本民俗文化大系 第8巻 村と村人』小学館、1984年、462頁に引用)を指摘している。
- (2) 『日本民俗文化大系 第10巻 家と女性』小学館、1984年、463頁、写真解説。
- (3) 『日本民俗文化大系 第10巻 家と女性』小学館、1984年、454頁、写真解説。
- (4) 宮田登「水子供養」『大衆文化事典』弘文堂、1991年、763頁。
- (5) 千葉徳爾・大津忠男『間引きと水子一子育てのフォークロア』農山漁村文化協会、1988年、235頁以降。
- (6) 飯島吉晴「子供の発見と児童遊戯の世界」『日本民俗文化大系 第10巻 家と女性』小学館、1985年、245頁引用。
- (7) 波平恵美子「民俗としての性」『日本民俗文化大系 第10巻 家と女性』小学館、1985年、506、529～530頁。
- (8) 関西地方で更年期女性の健康状態について面接調査を行っている人類学者、マーガレット・ロック Look, M. は、現在彼女たちが不調の原因を、水子供養を行わなかったためではないかと考えていることを発見している(青柳まち子「忌避された性」『日本民俗文化大系 第10巻 家と女性』小学館、1985年、454～455頁)。
- (9) 前掲(4)。
- (10) 岩井宏實『絵馬秘史』1979年、159頁。
- (11) 柳田國男「故郷七十年」『定本柳田國男集』第15巻、筑摩書房。
- (12) 岩井宏實『ものと人の文化史 絵馬』法政大学出版。
- (13) 石塚友子「東北における『間引き』の周辺」『差別とたたかう文化』12、1984年、8頁に『藤沢町史』522頁を引用。
- (14) 『日本民俗文化大系 第10巻 家と女性』小学館、1985年、435頁、写真解説。
- (15) 高田衛『江戸の悪魔祓い師』筑摩書房、1991年、150～156頁。
- (16) 『日本残酷物語』第一部。
- (17) 梶宗次『明治前日本産婦人科史』日本学士院科学史刊行会編、1964年、109～110頁。
- (18) 千葉徳爾『間引きと水子』農山漁村文化協会、1973年。
- (19) 『耶蘇会誌』1585年。
- (20) 『日本残酷物語』第一巻。

- (21) 武田明『日本人の死霊観』1987年。
- (22) 柳田國男『定本柳田国男集』第15巻, 1988年。
- (23) 有賀喜左衛門『有賀喜左衛門著作集』Ⅷ巻, 1969年, 346頁。
- (24) 岡手遺跡「血縁幻想の病理—近代家族と親子心中—」『都市民俗学へのいざない 1—混と生成—』雄山閣, 1989年, 83~108頁。
- (25) 大藤ゆき『児やらい』1968年, 14~19頁。
- (26) 『仏教文化事典』佼成出版, 928頁。
- (27) 勅民俗学研究所『改定総合日本民俗語彙』第4巻, 1956年, 1511頁。
- (28) 駒沢晃「グラビア 水子地藏写真展『悉有佛性』」『週刊文春』1982・6・17。
- (29) 「つるしあげられた墮胎天国日本」『週刊文春』1960・5・9, 56~頁。
- (30) 「人に聞けない失敗なしの妊娠中絶—その手続きと手術のすべて」『女性セブン』1974・9・25, 156~頁。
- (31) 『週刊女性』1976・8・10, 122~頁。
- (32) 『週刊大衆』1978・11・2, 『週刊女性』1980・12・2, 『週刊女性』1985・2・12, 124~頁。
- (33) 『週刊女性』1980・12・2。
- (34) 『週刊現代』1980・9・18, 186~頁。『週刊朝日』1980・11・14。
- (35) 『週刊女性』1977・11・1, 102~頁。『週刊女性』1980・12・2。
- (36) 『週刊読売』1980・11・2, 44~頁。
- (37) 『週刊女性』1980・12・2。
- (38) 『週刊女性』1981・6・16。
- (39) 駒沢晃「グラビア 水子地藏写真展『悉有佛性』」『週刊文春』1982・6・17。同「グラビア 飢饉でもないのになぜかいま水子地藏ブーム」『週刊文春』1980・6・26。
- (40) 高橋梵山『墮胎問引の研究』第一書房, 1981年(復刻), 口絵。
- (41) 前掲(3)。
- (42) 『サンデー毎日』1978・7・23, 152~153頁。
- (43) 波平恵美子「民俗としての性」『日本民俗文化大系 第10巻 家と女性』小学館, 1985年, 529~530頁。
- (44) 松尾空心『妖説水子地藏』春秋社, 1982年。
- (45) たとえば, 中岡俊哉『水子霊の研究』(1970年, 56~65頁)によれば, 大奥総取締をつとめる絵島が芝増上寺参詣の帰途, 山村座新春狂言をみたあと, 役者生島新五郎と親しくなり, 7年間交際し, 墮胎していたといい, その結果大奥騒動がおき失脚したという。霊障は7年目がきついととく。
- (46) たとえば『自分でできる水子の供養』高島象堂, 1988年。
- (47) たとえば, 仏教文化研究会『慈愛善行 水子供養』(ひかりのくに社, 1981年, 84~頁)をみても, 先祖のまつりのしきたりや作法に従えばよいとしており, 不明確である。
- (48) 藤田庄市『拝み屋さん』弘文堂, 1990年, 151~167, 170~171, 187~192頁。
- (49) この点について, 溝口明代は重要な指摘をしている。「(水子供養)は, 父権制社会の共同主観がいだいた危機意識によって, 父権制システムが作動した結果」だと指摘し, 今日社会システムでは女性存在からの中絶の位置づけが弱く, 女性(自身)の身体観ができていないため, 中絶は女性存在を引き裂いてしまう。だから「『水子供養』こそ, 男女二重規範の差別的行為であり, 女性支配の根幹をなすものであり, 女性への恫喝, 文化的攻撃である」という(グループ母性解説講座『“母性”を解説する』有斐閣, 1991年, 74~75頁)。
- (50) 「京都あだし野に眠る水子の霊たち……水子寺物語」『週刊女性』1977・11・1, 102~頁。
- (51) 『丸』1955・1, 100~頁。
- (52) 『週刊サンケイ』1967・4・24, 74~頁。
- (53) 『週刊女性』1980・12・23, 19881・1・1, 190~頁。
- (54) 『週刊女性』1981・6・16。
- (55) 『女性自身』1982・11・4, 193~頁。
- (56) 安東 民『ゴッドマガジン』1985・5, 112~頁。
- (57) 『ヤングレディー』1985・7・23, 144~頁。
- (58) 『ヤングレディー』1985・8・13, 155~頁。

- (59) 『ヤングレディー』1985・8・27, 169～頁。
- (60) 『プレイボーイ』1985・9・9, 46～頁。
- (61) 『女性セブン』1987・8・27, 219～頁。
- (62) 『平凡パンチ』1987・8・27, 45～頁。
- (63) たとえば、三井寺円満院は「PR これだけはしておきたい水子の供養」と題した広告記事を、『アサヒ芸能』(1978・2・2, 108～頁), 『週刊サンケイ』(1978・2・23と1979・12・13), 『サンデー毎日』(1978・7・23, 152～頁) にしている。
- (64) 『週刊ポスト』1982・12・17, 24, 207～頁。
- (65) 秋津黎『政界往来』1987・6, 26～頁。
- (66) 「鈴木健二さんの問題発言 中絶する女は売春婦だ! の大騒動…優性保護法改正?」『女性自身』1983・4・7, 54～頁。

## 追記

- 民俗学以外の分野では、次のような研究がある。
- 小野泰博「流れ灌頂から水子供養へ」『伝統と現代』75号, 1982年。
  - 北塔光晃『真宗と水子供養』永田文昌堂, 1982年。
  - 伝道院特定課題研究会「真宗の立場からみた『みずこ』問題」『宗報』1984年11・12月号。
  - 星野英紀・武田道生「負の精神性とやすらぎ—現代水子供養の底流—」『真理と創造』24号, 1985年。
  - 大西昇「みず子供養にみる呪術の問題」『東京工芸大学工学部紀要』第8巻2号, 1985年。
  - 神原和子「みず子供養にみる靈魂の問題」『同上』同上。
  - 岩本一夫「みず子供養にみる宗教性の問題」『同上』同上。
  - 高橋由典「罪貴感とその軽減—『水子供養』調査から—」『ソシオロジ』32巻1号, 1987年。
  - 橋本満「不安の社会に求める宗教—水子供養—」『現代社会学』23, 1987年。
  - 落合誓子「女と靖国—水子供養の現実—」『続・靖国を撃つ』永田文昌堂, 1989年。
  - 橋本満「水子供養と女性の癒し」原田平作・溝口宏平編『性のポリフォニー』世界思想社, 1990年。
  - 新田光子「『水子供養』に関する統計調査資料」『社会学部紀要』第2号龍, 谷大学社会学部学会, 1991年。
  - 高橋三郎「『水子供養』に関する統計調査資料」『平成3年度科学研究書補助金研究成果報告書』(一般(B)), 1992年。

(大阪外国語大学外国語学部)

## The Rise of *Mizugo Kuyō*

—Offering Prayers for the Spirits of Miscarried Babies—

MORIKURI Shigekazu

Buddhism does not teach that prayers should be offered for the spirits of miscarried babies, nor did ancestor worship in pre-modern Japan include the practice at the domestic level. This being so, why is it that today it is commonly said in Japanese society that '*Mizugo kuyō* must be performed, or the spirit of the dead baby will haunt you'? The practice of *mizugo kuyō* started in the 1970's, becoming extremely popular in the 1980's; now, twenty years on, the practice needs to be studied as an ethnic custom.

What was done in pre-modern Japan when more children were born than could be supported? Abortion or killing at birth of a child that could not be supported, became a rationalized act, commonly referred to as 'returning' the child. The survival rate of new-born infants at that time was in fact low, and a particularly simple funeral service was held in the belief that, regardless of whether the death was natural or induced, the spirit of such a child would be immediately reborn.

Even so, for a pregnant woman the loss of her child is both a physical and a spiritual blow, which no woman can undergo without suffering. Added to which, the birth of the modern family from the Meiji Period onward, with such slogans as 'Good wife, wise mother', and 'Revile the barren', defined woman as the 'breeding sex', with no other work to perform. Thus the pain of social immorality was added to the woman's physical pain. The cry of grief that this produced is apparent in the practice of *mizugo kuyō*.

However, this female cry was made into a market for the temples, which had lost sight of the direction of their religious activities, and were in administrative straits. It was played upon by the sales strategies of the temples and the 'New Religions' and writers calling themselves psychists, and spread through the pages of cheap weekly magazines.

The modern family after the Meiji Period was something that existed solely for the sake of the industrial system according to male logic. It is interesting to note that the practice of *mizugo kuyō* appeared in the 1970's, when economic growth had passed the peak it reached in the 1960's. The illusions of the industrial society made women turn to *mizugo kuyō*; and the temples accepted these women as customers. Thus women found themselves besieged by unrest over their miscarried babies, they were driven toward the relief to be found in *mizugo kuyō*.

Accordingly, I would like to analyze, by means of an analysis of the *ema* (votive pictures) left by these beleaguered women, some part of their state of mind.